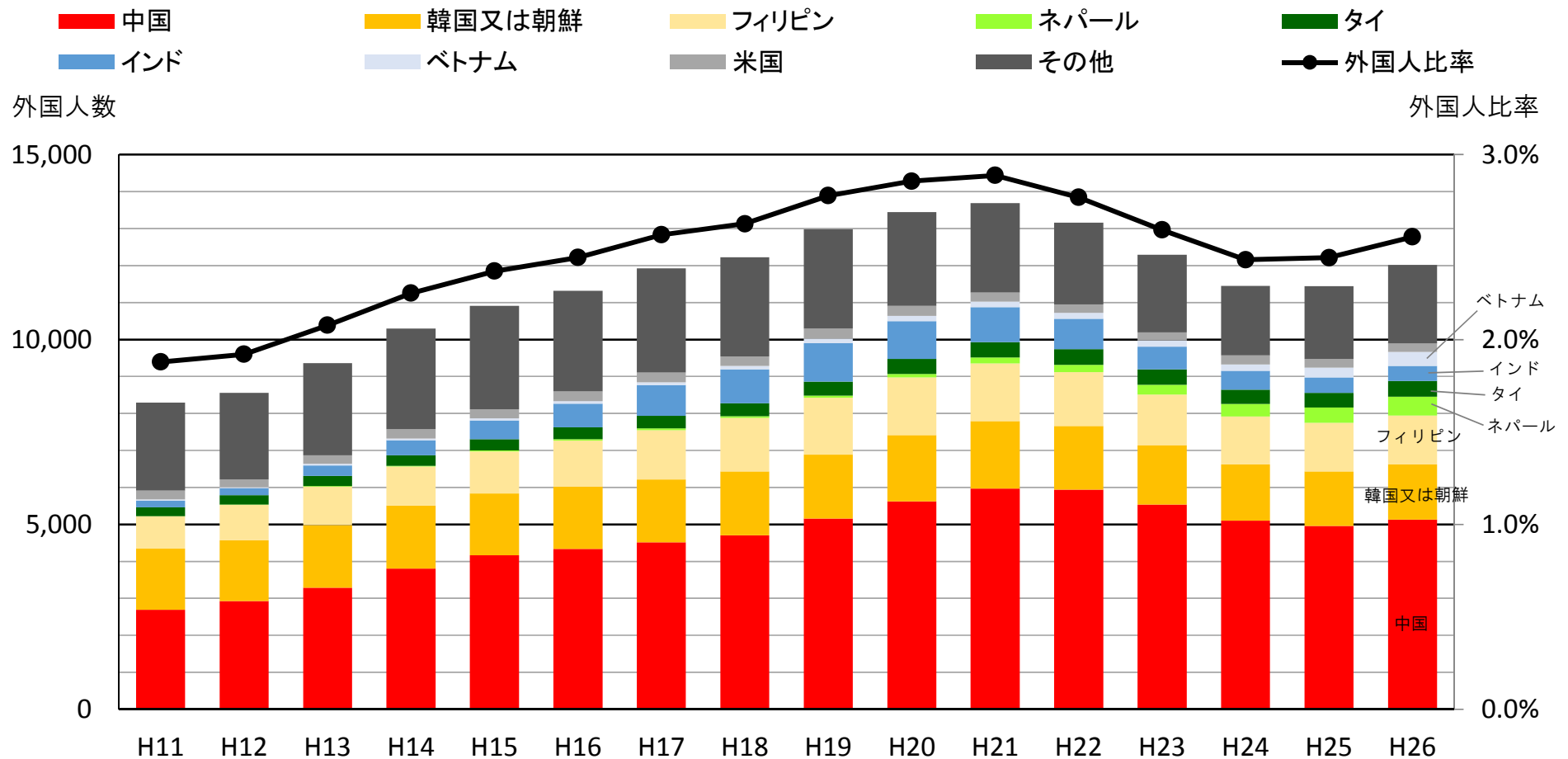


市川市の人口の状況について
(追加報告)

市川市 外国人の推移（各年9月30日時点 住民基本台帳）

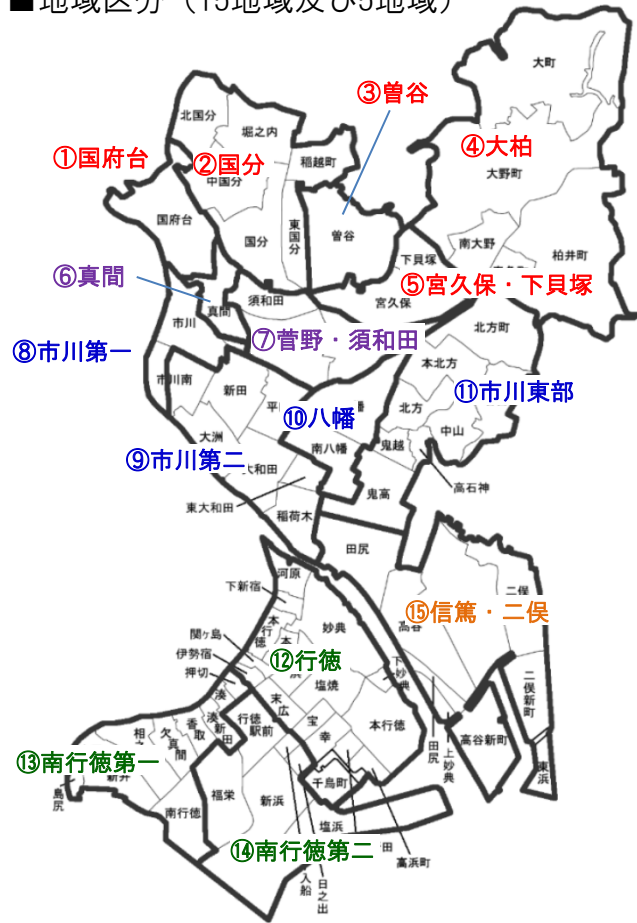


（外国人の数）

- 平成26年の外国人数は約12,000人・総人口の約2.6%となっている
- 国籍別では中国（約5,100人・全体の約4割）、韓国（約1,500人）、フィリピン（約1,300人）の順に多くアジア国籍の外国人が全体の約9割を占めている
- 外国人数の増減傾向は、総人口の増減に比例した傾向となっている

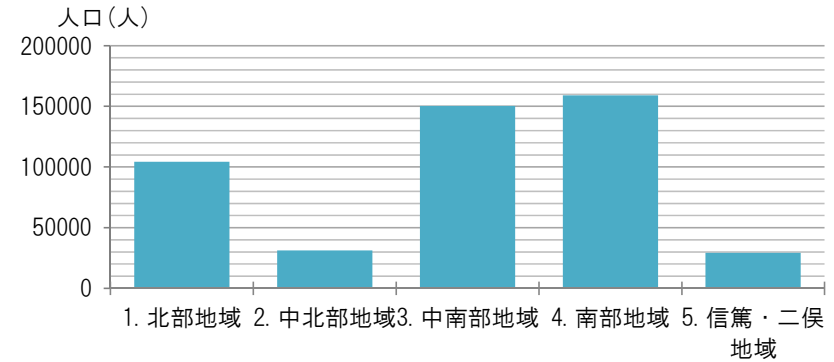
■市川市 地域別人口（平成27年4月1日現在 住民基本台帳）

■地域区分（15地域及び5地域）

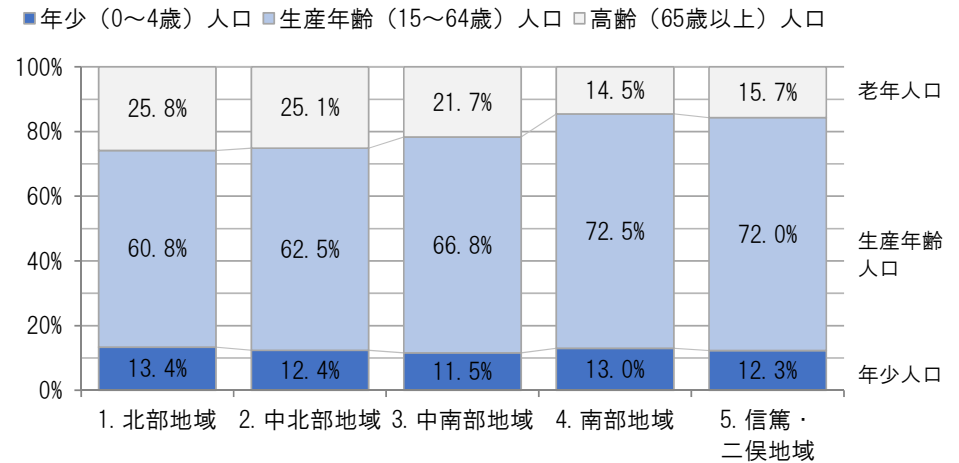


1. 北部地域
 - ①国府台
 - ②国分
 - ③曾谷
 - ④大柏
 - ⑤宮久保・下貝塚
2. 中北部地域
 - ⑥真間
 - ⑦菅野・須和田
3. 中南部地域
 - ⑧市川第一
 - ⑨市川第二
 - ⑩八幡
 - ⑪市川東部
4. 南部地域
 - ⑫行徳
 - ⑬南行徳第一
 - ⑭南行徳第二
5. 信篤・二俣地域
 - ⑮信篤・二俣

■各地域の人口



■各地域の年齢構成



（地域別人口）

○市の人口は、東西線沿線の南部地域、総武線沿線の中南部地域が多い（2地区の合計で全体の約6割）

（地域別人口の年齢構成）

○北部、中北部地域は、高齢化が進んでおり市全体の平均より高い（老年人口は約25%）

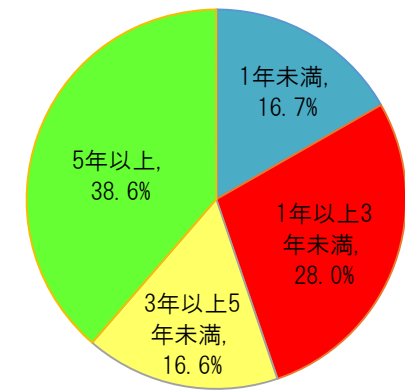
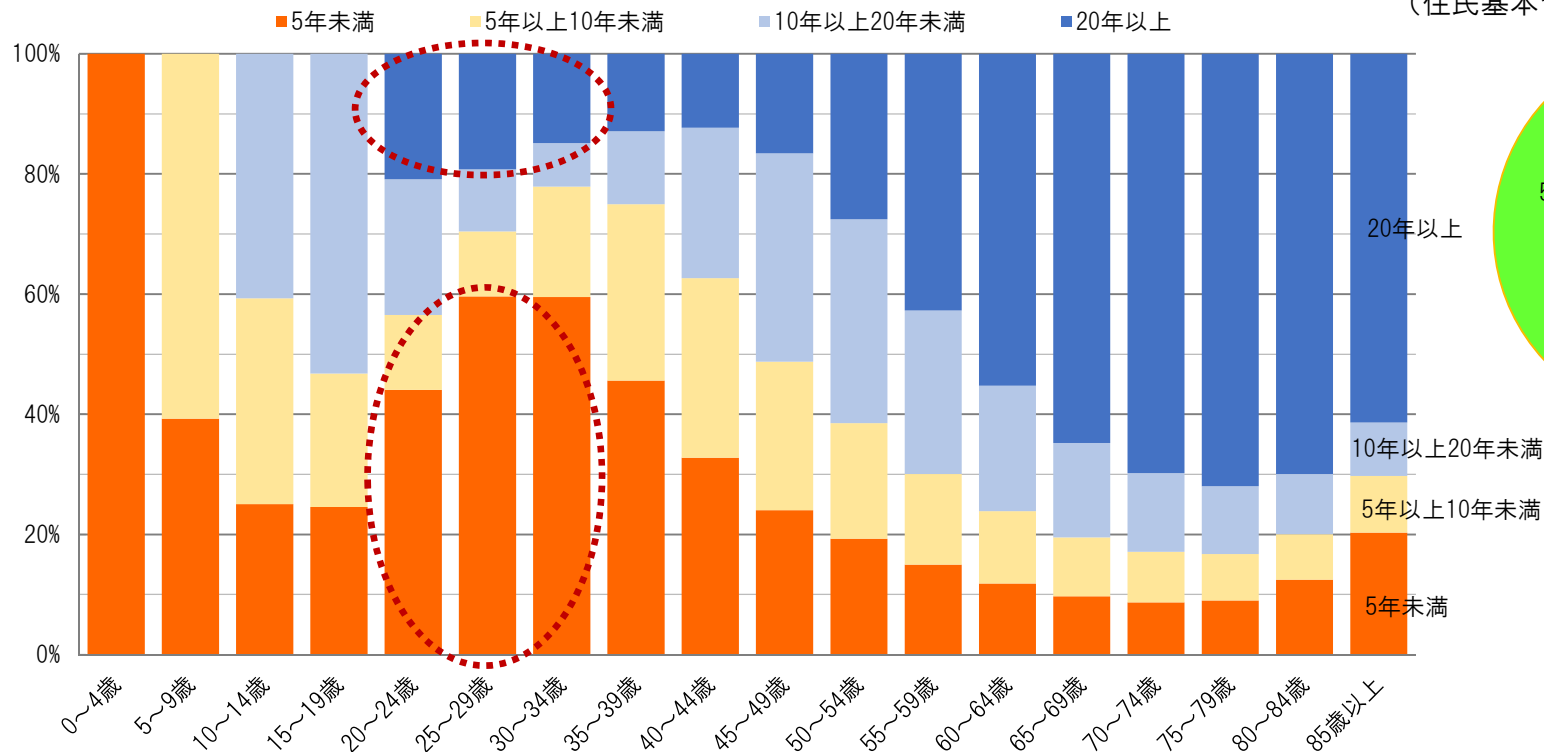
○年少人口は、いずれの地域も12~13%程度で地域により大きな差はみられない状況となっている

市川市 居住年数

今回審議会追加資料

■年齢別・居住（現住所の居住）年数別の構成（平成22年国勢調査）

■転出者の転出するまでの居住年数（住民基本台帳 平成20～26年度の計）



（居住年数）

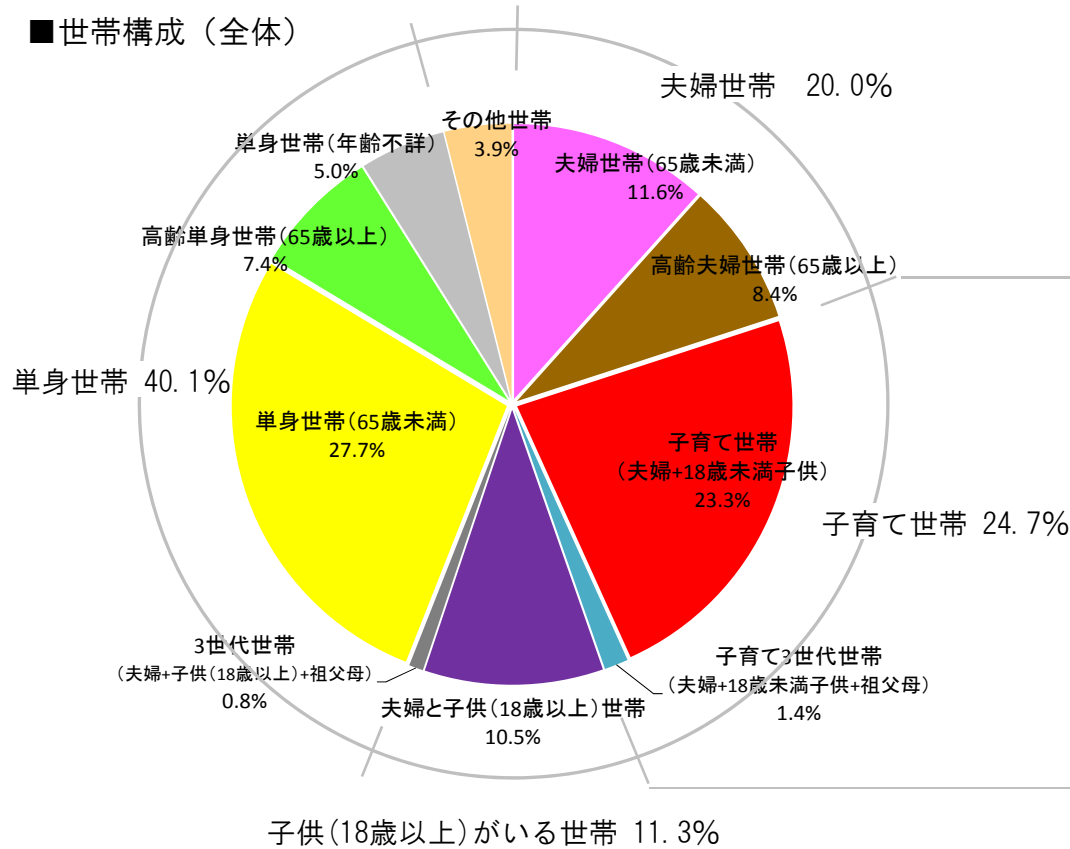
- 20代前半から30代前半は、居住年数5年未満が6割程度と多く、また、20代前半と30代前半を比較しても、ほとんど居住年数20年以上の層が増えていない
- このため、この年齢層については、人の入れ替わりが多く、定住化していないものと考えられる
- 一方、40代以降は、年齢階層が上がるにつれて居住年数が増加しており、定住していることが伺える

（転出者の居住年数）

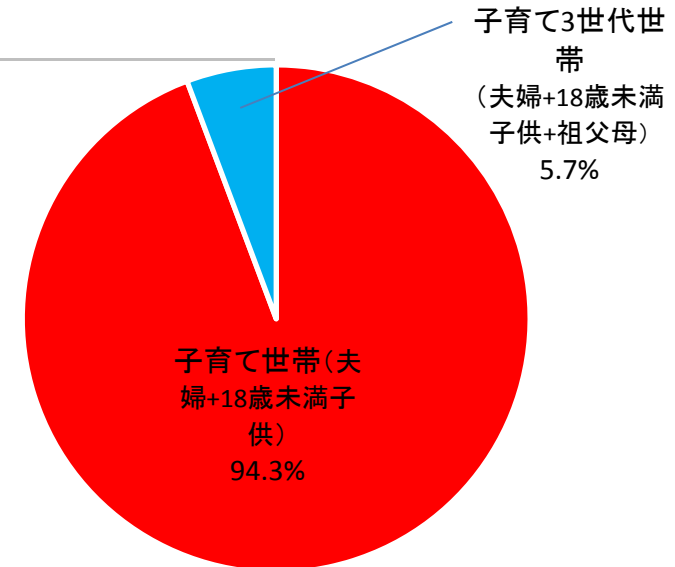
- 転出者の4割強が、居住年数3年未満となっており、転入者の多くが短期間で転出していることが伺える

■市川市 世帯の状況（平成22年国勢調査）

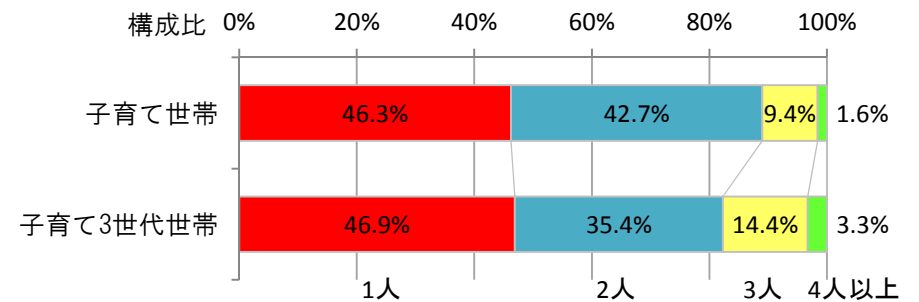
■世帯構成（全体）



■子育て世帯の構成（核家族と同居世帯の割合）



■子育て世帯と3世代世帯の子どもの数※

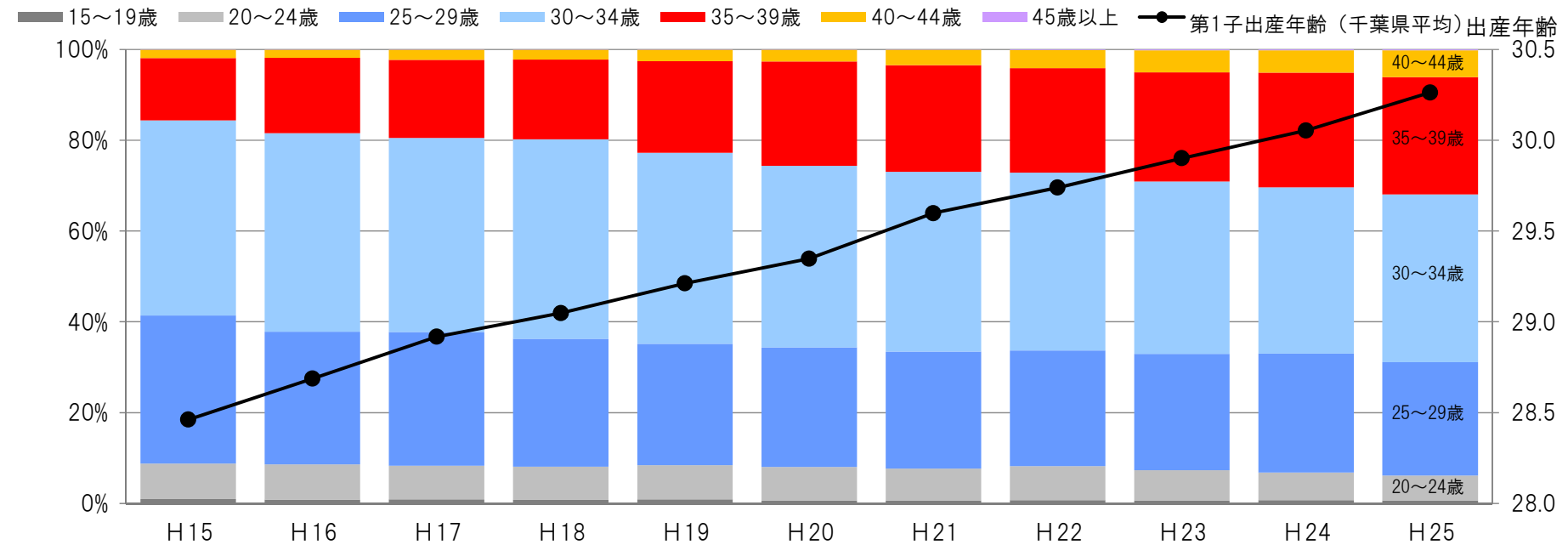


※末子が6歳未満の子どものいる世帯の子どもの数

- 単身世帯が40%と多い（千葉県全体では30%）
- 子育て世帯（夫婦と18歳未満の子ども）は23%（千葉県全体では25%）
- 3世代世帯（夫婦+子供+祖父母）は2%程度（千葉県全体では6%程度）
- 特に、子育て世帯の9割以上が核家族であり、祖父母と同居している世帯は5%程度

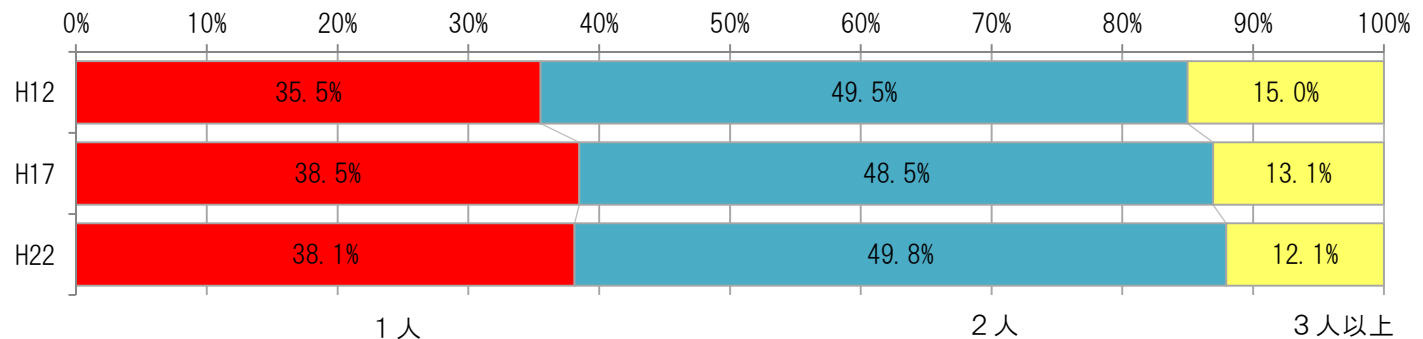
■ 第1子の出産年齢・世帯の子どもの数

■ 出産年齢（千葉県衛生統計年報）



■ 世帯※の子どもの数（国勢調査）

※末子が18歳未満の子どものいる世帯の子どもの数



（世帯の状況）

- 第1子の出産年齢は、過去10年で平均2歳程度上昇しており、特に35歳以上の出産が増えている傾向
- 世帯あたりの子どもの数は、過去10年間で子ども1人の割合が3%程度上昇し、子供の数は減少傾向